

＜畜産＞

- ・・・現在、円安と天候の影響を受けて購入の粗飼料価格が高止まりの状況です。
そこで、飼料作物の裏作栽培についての情報です。・・・

◎平成24年度、信濃町(最深積雪 1.5m の場所)において、イタリアライグラスの適期播種より3週間遅い 10 月末にイタリアライグラスおよびライムギを播種して越冬性を調査しましたが、イタリアライグラスは越冬することができませんでした。これから積雪地で栽培する場合は、ライムギを選択して作付けしてください。

1 イタリアンライグラス

(1) 品種について（適品種及び特徴）

- ア) 裏作で用いる飼料作物としては、栄養価が高く、家畜の嗜好性も高いと言われています。
イ) 越冬性は、ライ麦に比べて劣るので、播種適期は、9月中旬～10月上旬です。播種が遅れる場合は、播種量を3割増しにしますが、冬期間気象条件では越冬できない可能性もあります。
ウ) 硝酸態窒素は、ライ麦より溜まりやすい特性があります。化成肥料の施用が多い野菜畑後や糞尿を大量に施用している場合は、注意が必要です。
エ) 品種は、数年利用できる永続性（4倍体）の品種もありますが、裏作としては1回刈りに適した早生品種を利用します。一昨年度実施した中信地域での栽培試験では、タチマサリ、タチワセ（雪印種苗）、イナズマ（カネコ種苗）の収量性が高い結果でした。
また、優春（雪印種苗）は、カリが少ない特性を持つ品種として市販されています。
雪の少ない場所で10月下旬以降の遅まきを行う場合は、イタリアンライグラスとライコムギ（ライ麦と小麦の雑種）との混播栽培をしている事例もあります。

播種量（イタリアン2kg、ライコムギ4kg/10a当たり）

(2) 栽培のポイント

- ア) 播種：播種量は3～4kg/10aです。発芽を良くするために表層攪拌後鎮圧を実施します。
※種と土が混和されれば良いのでタイヤ等での鎮圧だけでも十分です。
イ) 標準的な施肥基準は、堆肥2～3トン、土壌改良剤で苦土石灰50kg、熔リン40kg、基肥は14オール化成20kg。
※前作や堆肥の施用量・施用年数等を考慮して窒素肥料は減肥調整します。
ウ) 収穫期の目安：出穂期が収穫適期（5月上旬～5月中旬）です。半日以上予乾処理をしてから、ロール・ベールラップ体系で収穫します。

2 ライムギ

(1) 品種について（適品種及び特徴）

- ア) 裏作用の飼料作物としては、越冬性は高く収量は多いです。しかし、イタリアンライグラスより湿害に弱い特性があります。
イ) 収穫適期である出穂期を過ぎると家畜の嗜好性、栄養価は低下し、また、倒伏も懸念されるので、適期収穫に努めることが特に重要です。
ウ) 品種は、春一番（雪印種苗）及びハルミドリ（カネコ種苗）が代表的な品種ですが、作付面積が多い場合は、作期の分散を考慮して晩生の春香（雪印種苗）の一部導入も有効です。

(2) 栽培のポイント

- ア) 播種：播種適期は10月上旬から11月上旬です。標準的な播種量は、8kg/10aです。発芽を良くするために播種後の覆土（2～3cm）と鎮圧を実施します。
イ) 施肥量（10a）は、イタリアンライグラスと同様です。
ウ) 収穫期の目安：出穂期が収穫適期（5月中旬から6月上旬頃）です。半日以上予乾処理をしてから、ロール・ベールラップ体系で収穫します。

3 永年牧草地の雑草管理

☆ギシギシの多い草地への除草剤散布

秋の収穫後、ハーモニー75DF水和剤3g/10aを水100リットルに希釈して散布してください。次に使うときは機械の中に微量でも残っているとイネ科以外の作物に薬害が出る恐れがあるので使用後直ちに噴霧機等の洗浄を丁寧に行ってください。シロクロバー等マメ科牧草には薬害が生じますので注意が必要です。スポット処理でも効果があります。



永牧牧草地の「ギシギシ」

この資料は、平成25年10月9日現在の農薬登録状況により作成しました。
農薬の使用にあたっては、最新の登録状況を確認してください。

4 農機具の格納

・・・農業機械は「忙しいときこそ、確実に使用できる機械」であることが最も重要ですがそのためにはシーズン終了後の格納点検とシーズン初めの定期点検を確実に行うことが大切です。農業機械に添付されている「取扱説明書」に基づき格納点検しましょう。・・・

- (1) 農機具の格納にあたっては高圧洗浄機やコンプレッサーで泥やゴミ等をきれいに掃除します。注油箇所には、すべて注油し、サビやすいところにオイルやグリスを塗ります。
- (2) タイヤの空気は規定量を入れ、スタンド等がある場合は利用して床面にしっかりおろして格納します。床などには板などを敷いてできるだけ湿気を防いでください。
- (3) エンジンオイルは、汚れている場合や古い場合は交換します。量が不足している場合は補充します。交換にあわせエレメントやエアクリーナを掃除します。
- (4) ガソリン、混合油は抜き取り後、エンジンがストップするまで運転するなどして、キャブレーターからも燃料を空にします。軽油の場合は満タンにして格納します。冬場に機械を使う可能性がある場合でも、夏購入した軽油は、水分を吸収して劣化が心配されますので給油しないようにします。
- (5) 冬期に冷却水が凍結し、ラジエーターやエンジンを痛めることがありますので、ラジエーターの不凍液の混合比が適切であるか確認します。（または、冷却水を抜き取ります）
- (6) バッテリーは、取り外して保管するか、端子を外しておきます。（バッテリーコードの接続を間違えると電気系統の故障につながりますので注意して下さい。一般的に、バッテリーを外すときはアース側のマイナスコードを最初に外し、次にプラスコードを外します。取り付けるときは、プラスコードを最初に取り付け、最後にアースコードを取り付けします。）

